

2012年8月 ベンチャー起業論「対決」 学部長挨拶

はじめに、ベンチャー起業論を支えてくれている講師の先生方、インターンシップの受け入れなどご協力いただきました企業の皆さまに、御礼申し上げます。皆様のおかげで、今年も前期の教育を無事に終了し、この企業対決のイベントを迎えることができました。誠にありがとうございました。

このベンチャー起業論は、「若者に元気を与えたい」「元気な若者を育てたい」という阿比留教授の思いから始まりました。ベンチャー起業論と言えば、おそらく普通の教員であれば、会社を起業するための手続きや経営のために必要な知識を教えることを行うと思います。

しかし、阿比留さんはまったく違ったユニークな方法を取りました。成功した起業家に講演していただきそれによって学生に夢を与え、インターンシップとそれにつづくプロジェクトによって自分で問題を見つけ解決する場を与え、そして、今日のこのようなイベントによって発表の楽しさを与え、そのような中で学生の元気を引きそうとしました。

ベンチャー起業論の今後を考えますと、ベンチャー起業論は、第1段階を終えて次の段階について考える時期に来ていると感じています。運動選手で言えば、基礎体力ができ、次はテクニックを身につける段階がきていると思います。ビジネスの世界に必要な知識として、マーケティングや会計、ファイナンスといったものがありますが、それらを体系的に学習し学生の活動に融合されることが、ベンチャー起業論をさらに発展させることにあるであろうと考えています。この点につきまして、企業家の皆様からアドバイスをいただければと思います。

今回の対決の準備のために、夏休みを返上して活動してくれた学生の皆さん。皆さんもまた、いや皆さんこそがベンチャー起業論を支えてくれている方々です。皆さんの真摯な態度を見て、阿比留教授の思いは、立派に実現したと感じています。皆さんは、この数カ月で人間的に確実に向上しました。それこそが皆さんの財産であることを認識したらいいと思います。今日の発表は本業の後のお祭りみたいなものです。大いに楽しんでください。

ベンチャー起業論を支えてくださったすべての方々、講師陣、企業の方々、学生の皆さんに感謝し、私からの挨拶といたします。